

クビアカツヤカミキリ

分類: コウチュウ目カミキリムシ科ジャコウカミキリ属

和名: クビアカツヤカミキリ

学名: *Aromia bungii*

英名: Redneck longhorned beetle

Plum longhorn beetle, Peach longhorn beetle

別名・流通名: アロミア・ブンギ

原産地と分布: 中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム北部、ロシア極東部など

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: クビアカツヤカミキリ

形態的特徴: 成虫の体長は、約2.5～4.0cm。日本で発生が確認されているものは、全体的に光沢のある青みがかった黒色で、前胸部が赤く、前胸背板の側方には1対のトゲ状隆起がある。海外では、前胸部が黒い個体も確認されている。



クビアカツヤカミキリ（メス）



クビアカツヤカミキリの幼虫の排出したフラス



在来種ジャコウカミキリ

類似した種との識別点:

国内には同属の在来種ジャコウカミキリ(*Aromia orientalis*)が北海道にのみ分布している。本種は、前胸部がクビアカツヤカミキリと同様に赤色で、体型も類似するが、全体的な体色が緑青色をしていること等で識別出来る。

全体に黒みがからず
青～緑青色

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: 既に国内において、街路樹や公園等の植栽のサクラ、ウメやモモ等の果樹へ加害し、枯損する事例が確認されている。幼虫が入り込んだ樹木の根本からは、フラスと呼ばれる木屑と虫糞の混合物が樹皮に開けられた孔から排出される。このフラスは、幼虫が大きくなるにつれ、挽肉状に連なったものが大量に排出される。加害が進むとフラスは樹幹の上部からも排出される。在来のカミキリムシや他の昆虫にもフラスを排出する種がいるが、バラ科樹木から大量のフラスが確認された場合はクビアカツヤカミキリを警戒する必要がある。